

「南部町地域のあり方に関する検討成果」

南部町地域ビジョン

～誰もが「幸せな生き方」をデザインできる地域～



「南部町地域ビジョン」とは、将来における地域のあるべき姿を明らかにし、住民、事業所、NPO、行政など、多様な主体が共通の目標に向かい、一体となって進める地域づくりの基本的な考え方を定めたものです。

「人と自然が響き合い ともに創る なんぶ暮らし」の実現に向けて、地域が一体となり、地域資源の活用や地域課題を解決し、持続可能な地域の構築を目指します。

令和8(2026)年3月

南部町地域のあり方検討会

1 南部町の魅力と課題

(1)南部町の魅力

南部町には、多くの魅力がありますが、ここでは以下の通り4つのカテゴリで整理します。

(1)地域と一体となった学校教育・社会教育と生涯活躍のまち

・コミュニティ・スクール, まち未来科, ミカエルセミナー, 生涯活躍のまちづくりなど

(2)地域を愛する住民と地域づくりを担う多様な主体

・地域振興協議会, NPO 法人なんぶ里山デザイン機構, JOCA 南部, SAN チャンネル
高校生サークル, 新☆青年団など

(3)悠久の時を経て里人が紡いできた里地里山

・重要里地里山, 農業(稲作, 果樹など), 生物多様性, 伝統行事・文化など

(4)地域で安心して暮らせる健康医療福祉環境

・スポ net なんぶ, 西伯病院, 伯耆の国, 社会福祉協議会, 地域包括支援センター
いくらの郷など

(2)南部町の課題

南部町には、魅力とともに課題も多く存在しています。以下の4つのカテゴリで整理します。

(1)育成された人材の地域における活躍

・地域を維持するために子ども・若者の参画や, 高齢者が有する知恵や技術の伝承など

(2)人口減少と少子化・高齢化による地域コミュニティの維持

・住民相互のコミュニケーション不足, 困難な地域コミュニティの維持, 高齢者単身・
夫婦世帯の増加, 地域での見守りなどの負担増加など

(3)地域産業の振興と森林資源・里地里山の保全

・農業生産の担い手不足・後継者育成, 森林資源・里地里山を保全する人の減少など

(4)地域の健康医療福祉体制の維持

・地域包括ケアシステムの充実, 地域福祉の担い手不足など

2 地域が向かうべき方向性

南部町には、多くの魅力がある一方で、課題もあります。これからも、南部町で住んだり、関わったりする人々が幸せに過ごしていくために、地域が向かうべき方向性を以下のように整理します。

■ミッション：求められる地域像

地域の魅力を活かし、誰もが「幸せな生き方」をデザインできる地域

「ミッション」とは、最終的に南部町に求められる地域像のことを示します。

地域の実態を前向きに捉え、明るい未来を切り拓くためには、地域の魅力を活かすことが必要です。そして、時代や社会の変化を柔軟に受け止めるためには、一人ひとりが「幸せな生き方」の「ものさし」を作る必要があります。南部町では、「幸せな生き方」の「ものさし」を作ることを「デザイン」と称します。

■ビジョン：地域のあるべき姿

- (1)子ども・若者を中心に据えた子育てしやすく学び続けられる地域
- (2)コミュニケーションの深化による誰もが情報を共有しあえる地域
- (3)多様な主体の参画により農業生産が継続し里地里山が保全できる地域
- (4)地域ぐるみで住民の健康寿命を延ばし、誰もが安心安全に暮らせる地域

「ビジョン」とは、「ミッション」を実現するために、地域のあるべき姿を示します。

南部町では、子どもや若者を中心に据えた地域となることを目指すために、**学び続けられる地域**を目指します(ビジョン1)。また、地域住民や南部町に関わる人々が相互にコミュニケーションを深め、活発に行われている地域活動を相互に認めあえるよう、**情報を共有しあえる地域**を目指します(ビジョン2)。南部町の基幹産業である農業を維持することで、**里地里山景観が保全できる地域**を目指します(ビジョン3)。1~3のビジョンを実現するためには、地域住民の健康寿命を延ばし、病気・障がいを抱えていても、相互に支え合える**安心安全に暮らせる地域**を目指します(ビジョン4)。

■バリュー:基本方針

(1)人づくり

コミュニティ・スクール活動の普及を基盤とした子どもも大人も育つ地域

(2)地域づくり

集落と地域振興協議会の役割分担と防災・福祉が連携する地域づくり

(3)関係づくり

地域住民, 行政, 関係人口(他出子+ふるさと住民等)の三者協働の関係構築

(4)健康づくり

保健・医療・福祉の有機的な連携による南部町版地域包括ケアシステムの充実

「バリュー」とは、「ミッション」を実現するための、基本方針を示します。ここに示された(1)～(4)の基本方針は、南部町の魅力と課題の整理に基づいた内容になっています。(1)人づくりはビジョン(1)に対応し、子ども・若者のみならず、大人も含めて学び続ける人を育てることを基本方針とします。(2)地域づくりはビジョン(2)に対応し、情報を共有しあえる地域を構築していくことを基本方針とします。(3)関係づくりはビジョン(3)に対応し、多様な主体の参画することにより実現することを基本方針とします。(4)健康づくりはビジョン(4)に対応し、誰もが安心安全に暮らせるための基本方針とします。

■ターム:計画期間

令和 11 年度(2029 年度)～令和 20 年度(2038 年度) 第3次総合計画の期間

前期:令和 11 年度(2029 年度)～令和 15 年度(2033 年度) 5年間

後期:令和 16 年度(2034 年度)～令和 20 年度(2038 年度) 5年間

※令和 9 年度、10 年度:先行実施期間

本ビジョンは、「南部町地域のあり方に関する基本方針」として位置づけられ、令和7年度に策定されました。これに基づき、令和8年度は「南部町における地域のあり方に関する基本計画」を策定する予定です。その後、令和9年度～10年度にかけて「第3次総合計画」が策定される予定です。そのため、令和9(2027)年度～令和10(2028)年度の2年間は「先行実施期間」と定め、先行して可能な改革を実施していきます。また、「第3次総合計画」の検討過程で、本ビジョンと齟齬が生じた場合には、本ビジョンの内容を見直します。

なお、「南部町における地域のあり方に関する基本計画」は、前期5年が終了した時点で内容の見直しを行い、後期5年の計画を改めて策定します。

3 地域の持続に向けたアクションの方向性

(1)子ども・若者を中心に据えた子育てしやすく学び続けられる地域【人づくり】

- ①コミュニティ・スクールとスクール・コミュニティの循環による学校教育・社会教育の浸透
- ②若者を含めた多様な主体による地域活動への参画
- ③図書館等の社会教育施設の整備による学習環境の充実
- ④特徴のある教育を通じたUターン・Iターンの促進

(2)コミュニケーションの深化による誰もが情報を共有しあえる地域【地域づくり】

- ①地域づくりを統括する地域戦略会議の設置と地域づくり活動の継続性担保
- ②ICTを活用したコミュニケーションの深化と誰もが情報を共有しあえる仕組みづくり
- ③地域振興協議会と集落のあり方の再検討による持続可能な地域組織づくり
- ④地域課題の解決による雇用創出と経済活動の深化
- ⑤地域福祉の充実による災害時に助け合いが行える地域づくり

(3)多様な主体の参画により農業生産が継続し里地里山が保全された地域【関係づくり】

- ①集落を越えた小規模農家の組織化
- ②農業に関する助成金制度等のプラットフォーム化
- ③若者・移住定住希望者向け就農支援制度の構築
- ④長期就農を目的とした収入確保と販路の確立等のマネジメント

(4)地域ぐるみで住民の健康を維持し、誰もが安心安全に暮らせる地域【健康づくり】

- ①地域包括ケアシステムの充実
- ②デジタル情報による健康データの収集と保健活動の推進
- ③健康ポイントの実施展開による住民の健康づくり
- ④「みんなの食堂」(子ども食堂・地域食堂)の普及と担い手人材の発掘

4 求められる環境整備

(1)情報共有と発信を担う人や組織の整備

(2)地域づくりを担う人材の育成

(3)活動を支援する資金の確保

